

随想

旅のかたち

〔14〕

雪の宿

安水稔和

絵／中西勝

雪のなかで凧をあげた。子供たちがまだ小さかった頃、赤倉へはじめてスキーに連れていったときのことだ。ゲイルカイトと称する西洋凧の組立てセットを買い求めて持っていた。ひと滑りして宿へ帰ってきて、組立てた。宿からすこし離れた雪の原で、大きい方の子に凧を持たせて、小さい方の子に見てなさいと声かけて。夕方である。すこし風がある。さあ、あがるか。さあ、あげろ。雪のうえを走った。雪のなかへ足がすぼすぼ入って、走りにくい。凧がくるくるまわる。なかなかうまくあがらない。やっとあがったときは、もう汗だく。二人の子供は手をたたいて大声あげて、雪のうえ走りまわっていた。

妙高が見るまに見えなくなり、雪が来た。

雪にすっぽり埋まって屋根だけがのぞいている宿から、スコップ持ち出して、宿の前の道からすこし入ったところで雪を掘った。人が二、三人入れるほどの穴を掘った。とにかくせつせと掘った。穴のまわりで子供たちがはしゃいでいる。やっと腰ぐらいいまで掘って、さあ入れと外へ出ると、待ちかねていた子供たちが勢よくとびこんだ。雪のうえに坐りこんでこちらから見ると、上の子

の肩からうえが見えている。下の子の頭が見えにくれるのは、穴のなかでびよんびよん跳びはねているらしい。

次の朝、屋根裏部屋で目覚めると、昨夜の寒かったこと、掛け布団のうえに霜がおりたようにうすらと白いものがこびりついていた。目張りしてあるガラス窓のわずかの隙間から雪が舞いこんだのだ。朝の陽の光にきらきら輝いていた。

雪はこやみなくずんずん降りつもっていた。

新庄の町は雪の下だった。バスに乗った。窓の外は真白。なにも見えない。激しく白いものが横に流れるのは、最上川岸へ出たのだ。ほんやり黒いものが迫るのは、山あいに入ったのだ。ずいぶん乗って、やっとバスを降りると、雪の塊がぼたぼた降っていた。頭から足先まで真白になって宿に転がりこんで、暗い湿った廊下を奥へ奥へと歩いていって、たどりついた真四角の部屋。動かない窓をなんとかすこしだけ押し開けてみると、窓の外側には木の板が一面に打ちつけてあり、板のむこうは雪の壁。板と板の隙間から凍った雪がにじり出ていた。あわてて窓を元どおりにして、真四

角の部屋のまんなかにも坐りこむと、これは雪の箱ではないか。雪のきしむ音に囲まれて坐っていた。次の朝、暗い湿った廊下を伝って宿を出て、ほたばた降る雪を払い払いバスに乗り、黒いもの、白いもの、窓のそとを流れるものをぼんやりと眺めながら、新庄の町へ舞い戻った。雪はこやみなくずんずん降りつもっていた。町は雪の箱だった。

寛政十年（一七九八年）一月一日、菅江真澄は東津輕郡平内にいた。同月九日、小湊に赴き二十日まで滞在している。その間の見聞であろうか、旅日記「つがろのつと」に雪の田植の図絵がある。昨年刊行された『菅江真澄民俗図絵』には原寸大原色で収められている。



正月十四日の夕方、一人が昨日搗いた餅と煎豆の皮を柵に入れて持ち、もう一人が棒を持って地面を突きながら男二人が家のまわりを歩いている。雪のなかをめぐり歩きながら「やれくるるとんでくる 豆の皮 ほんがほか 銭もかねもとんで来る」と唱えて、一家安全無病息災を祈っている。「やらくろずり」と呼ぶ正月行事である。家の軒からさがっているつららがえがかれている。氷柱が軒下の土にとどくと豊年という言い伝えがあるとか。

それから同じ日の夕方、家のはたの雪をかきながらして田の代をつくり、豆殻をさして畔とし、その雪の田に早乙女姿の女が、かく長かれと萱を稲に見立ててさしている。雪の田植である。さらに男が萱を鎌で刈り取って刈り入れの真似をしている。雪の田で人々は今年の豊年を祈っているのだ。切に祈っているのだ。

そのとき真澄四十四歳。すでに十数回の北国の正月を迎えて、この稀有の旅人の目はますます冴えていた。



珈琲のみながら…

人間美を

追求して…

新谷 琇紀さん
(彫刻家)

1937年神戸生まれ。金沢市立美術工芸大学彫刻科卒業後、65年イタリアに留学。エミリオ・グレコ、ジャコモ・マンズー氏に師事する。美ヶ原高原美術館、神戸ポートアイランドに愛のモニュメント制作、著書に「ヨーロッパの素描」がある。現在、神戸女子大学教授。神戸市在住。

’89年10月に、神戸文化奨励賞を受賞された彫刻家の新谷琇紀さん。ワインのお好きな新谷さん、現在、酒の神「パッコとアリアンナ」の群像彫刻を制作されています。実年を迎えて一層、パワフルに活動する新谷さんに90年への抱負を語っていただきました。

★いつまでも前向きな姿勢のまま

——文化奨励賞、おめでとうございます。ひとつの節目になったように思います。

新谷 そうだね、年齢的にも50歳を越したので再出発をはじめの感じだよ。肉体が衰えても、精神は前向きに取り組みたいね。

昔は仕事に関して、新しいことや変わったことを次々とやってみようと思っていたけど、今は全く思わない。アツと驚かせるような一過性のものを創作するよりも、ウーンと唸らせ、子孫孫にまで寿命を保ち続けるようなものを作っていきたいね。それには自分の作品のテーマを深く、ひつこく掘り下げて感性を磨き込む必要があると思うている。

世の中が経済的に豊かになって、人の目も肥えてきたでしょう。それに対応して内容もより充実したものを求められる。それに、これだけあらゆる面で国際化が浸透しているのです、世界に通用し勝負が出来るような力量を保持しなくてはと思いますよ。

——そういう意味で、若いころイタリアに滞在した経験は大きいですね。

新谷 うん、イタリアでの体験は実に大きかった。ヨーロッパという手本があるのは、有難いよ。人類が叡智で考えられるすべてのことをローマはわずか400年で創り上げているんだ。だからヨーロッパとは縁が切れない。一生かかって、深く知りつくすことはできないだろうと思いますね。

★神戸に文化を育たせるためには…

——ヨーロッパと深く関連されてきたせいででしょうか。先生の作品には、「人間」をテーマにしたものが多いですね。

新谷 僕の作る彫刻は人体像が主だね。勿論、動物等も作りますがね。今のところ人間の魅力にとりつかれているんだ。コンピュータにしろあらゆる機械は人間が作動させている。美しい肉体と精神のバランスのとれた豊かな人間愛にあふれ、今日的で人々に愛される——そんな魅力的な人体の彫刻を創作していきたいと常に考えている。

アーティストはそれぞれが、个性的で独創的で感性を尊しとしているから、コンクールで順位はつけ難いし、私はあまり好きではない。ただしアルティザン(職人)が技術を競うコンクールであれば話は別だね。



「パッコとアリアンナ」の前で

現在はアーティストもアルティザンもアマチュアも同一視してしまっているんだね。ヨーロッパ各地で生活してみた結果、神戸の町はロケーションとしては申し分のない恵まれた自然条件と環境をもっているし海外との交流や接点も多く、グローバルな文化が育たないはずがないと思うよ。

芸術に限らず、何事でも段階的に進展していくものですからアルティザンの養成、アカデミズムの確立、そしてパトロネージの復活等々を着実に実行するべきでしょうね。

作家はとかく自己の技術や感性の研鑽を忘れて、自己顕示に走り、主役意識という作家意識を短期間で持ってしまう傾向がある。もっと長いスパンで自己の芸を思考して研鑽するべきでしょうね。

レール・枕木・玉砂利―即ち基礎や土壌がしっかりとっていないれば汽車は走れない様に、神戸の土壌がしっかりとっておれば、芸術家の層も厚くなり、次々と「神戸の汽車」が出現し、走っていくのではないだろうか。

★色気と感能のエロス

―現在、新しい作品を制作中とお聞きしましたが…。

新谷 「ワインの無い食卓は太陽の無い一日…」とヨーロッパで言われるけど、僕も幼少の頃よりワインをこよなく愛し続けているんだ。そんなわけで数年前から酒の神、ギリシア語で「ディオニソス」、イタリア語で「パッコ」と言いますが、3メートルを越す大作「パッコとアリアンナ」の群像の制作に取り組んでいる。色々な資料や神話の研究が必要なのでずいぶん日時がかかってしまったが、世界に通用する僕のオリジナルのスタイルのパッカス像が出来上がるよ!!

この作品もそうだけど、僕は作品の中にエロスを感じないものに興味はないね。エロスというすとぐ、ポルノとかグロテスクと誤解されるんだが、僕の言うエロスは色気や感能。これがあつて男らしさ、女らしさが表現できると思うんだ。エロスを感じる「パッコとアリアンナ」に乞うご期待かな…。

△兵庫区のアトリエにて▽

実験交流サロン

シアター・ポシェット

1月の公演

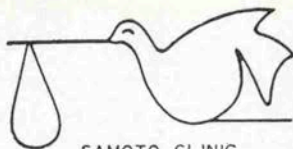
14日(日) ロッピデオコンサート

13:00~16:00 (無料)



★シアター利用のご案内

- 曜日、時間 / 土、日曜日 (通常) AM10:00~PM8:00
- 費用 / ホール設備の使用無料。光熱、空調、管理費のみ実費
- 付帯設備 / グランドピアノ・エレクトーン・録音、音響機器、ミキサー、照明コントローラー・テープレコーダー、マイク、映写機等
- お申し込み、お問い合わせ
 せごう前センター街東南角、さんちか入口
 〒650 神戸市中央区三宮町1丁目5-1 住友銀行ビル6F
 佐本小児歯科 佐本進 ☎331-6302~3



SAMOTO CLINIC

佐本
産科

ママといっしょに



赤ちゃん: 榎本 大智クン (昭和63年19月11日生)

ママ: 律子さん 西区在住

「ワンパクでもいい!! たくましく、そして心やさしく…」

★佐本産科・婦人科★

佐本 学

神戸市兵庫区中道通4-1-15
 ☎575-1024 (病室☎576-9639)
 市バス上沢4停南スグ

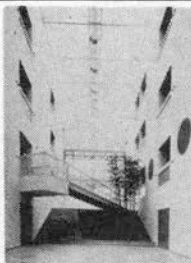
経済ポケット ジャーナル

★ワールドの新ビル

「創造夢」竣工。

㈱ワールド（畑崎廣敏社長）が創造活動の新拠点として、ポートアイランドのファッショントアウン内に建設中であった新ビル「創造夢」（ファッションクリエティブドーム）が竣工した。

新施設は地上四階、地下一階、二万六千四百平方メートル、三万五千冊のファッション関連の文献を集めたライブラリー、現在から二年先までのトレンドを予測し、四季ズンに分けパネル化するトレンドルーム、百年前の生地などを集めたオールドコレクショングルームを設



クリエティブスペース誕生



置するなど、アパレル企業としては最大規模の企画開発施設となっている。総工費は約四十三億円で、将来的には他企業のデザイナーにも開放してゆく方針。

★㈱神戸キヤラバン新社屋ファッショントアウンに完成
「キヤラバンさんようこそ。ニットの神様が、このファッショントアウンの仲間になって下さり、南隣りとは光栄です。」と、オールスター総本社の川上勉会長。

十二月十

二日（土）午後二時㈱神戸キヤラバン本社が、ファッショントアウンに

新社屋を完成し、その披露パーティーが開かれた。メリヤス・イメー

完成した新社屋と竣工披露パーティーの様相



ジをニットにレベルアップした、寺田源次郎会長。新しい価値感のあるライフとスタイルのファッションを寺田昌弘社長、金子政彦神戸キヤラバン社長は神戸から全国向けの商品開発を得意欲的だ。

★パール本社ビル、ファッ

ションタウンで地鎮祭
ブラウスの専門メーカー㈱パールがポートアイランドファッショントアウンに本社ビルの新築工事開始にあたり去る11月28日地鎮祭が斎主生田神社により行われた。設計施工は㈱熊谷組、建築概要は、敷地面積約27坪、鉄筋コンクリート造、地上七階、塔屋一階、地下



完成予想パース

★KOBEOフィステイ★



野村真由美さん（24）
〔アメリカンファミリー〕
〔生命保険神戸支社勤務〕

甲南女子大学人間関係学科を卒業後、保険会社の営業ウーマンとして忙しい毎日を送っている野村真由美さん。三宮を中心に15軒の代理店を回っての指導や情報を提供する仕事に張りきっている。入社して2年目。「アスレチッククラブや料理学校に通う余裕がやっとなってきました」と笑う。「これから人との出会いを大切にしていきたいですね」と前向きな女性である。

西宮市在住 獅子座A型

一階、駐車場面積は112坪。神事終了後松岡堅蔵社長は、「ポートアイに 진출することが一つの目標でした。今は身のひきしまる思いです。」と語った。
★神栄石野証券が英国に駐在員事務所開設
神栄石野証券㈱（本社神戸、石田一社長）は、昨年十二月四日、英国ロンドンのシティーにロンドン駐在員事務所を開設した。同社は昨年総合証券入りを果たしたが、これに備えて三年前に、外為法による指定証券の資格を取得、昨年七月に大蔵省に同事務所の開設を申請していた。金融の国際化、自由化に伴って、幅広く情報の収集活動を行うのが狙いで、同社が海外に拠点を設けるのは初めて。



■新春対談

文化は無駄が肝心。中隠の 精神が町の個性を創る

陳 舜 臣^{作家}
五木寛之^{作家}

「一度ゆっくり話があった」と語る陳舜臣さん、五木寛之さんのビッグ対談が実現した。一九九〇年代の始まりにふさわしい華やかな顔合わせで、文化のこと、神戸や横浜のことなど大いに話はずんだ。そのエッセンスを新春のお手許へ。



★夜の観劇の後、余韻を楽しむところがない

五木 「神戸っ子」は有名なマガジンなんですけど、確か十年ほど前に一度原稿のご依頼がありましたね。その時はまだ新人からやっつという、そんな時期で、夜も寝ずに仕事をしていたような状態だったものですから、お受けする仕事よりもお断りする仕事の方が多くて、本当につらい時期だったんです。それ以来ですね。

陳 今年で満29年か。確か全国のタウン誌が集まってくる大会も何年前に開いたたね。「地方の時代」と言われて久しいが、今年も頑張ってください。

とところでシスコにいらしたそうですが、気候はどうでしたか。

五木 非常に悪かったです。シスコも一応ウエストコ

ーストで年柄年中天気がいいとばかり思いこんでいたんですが、夜中に雷が鳴ったり、スコールのような雨が降ったり、一日のうちでもほとんどん天候が変わりましてね。陳 ロスは、年に何回も雨が降らないから映画撮影所を作ったでしょう。ビバリーヒルズというのは、大邸宅が並んでいる処ですが、屋根がみなぞんざいなんですよ。ちよつと雨が降ると漏るんですって。その雨漏りを直すのが、昔の日本の留学生のアルバイトだったそうです。二十年ぐらい前だったかな。そういうことを聞いたことがあります。

五木 なるほど。ところで、日本でもいまオープンカーのブームらしいですね。マツダが新しいオープンカーの注文を抱えてどうにもならないくらい人気があるらしい。けれど僕は日本では無理だと思えますよ。雨が降る

たびにホロを上げて屋根をつけるようなことをしないような土地でない。最近は大倒的に若い人に人気があるようですがね。

陳 ようやく自動車というものがファッションになりましたね。

五木 動くものとして遊ぼうという。

陳 豊かになったんだが、豊か慣れがしてないような気もするね。

五木 もう当り前のことでご存知でしょうが、町と言うのは例えば車と道路と、それから車で生活する人の生活と、車が走る町とそんなものがひとまとまりになってあるような気がするんです。ですから、渋谷に文化村とかを造って大きなオペラ劇場が出来たので見に行ったのですが、立派な劇場は出来ても周囲というものは、持ってくるわけにはいきません。まわりの環境がオペラ劇場についてこれない。その上、地価の異常な高騰で……。

陳 ちょっと異常ですね。

五木 上野の文化会館でオペラを見ても、終わると十時半頃。外にはそれこそ木枯しに落葉が舞っているだけで店一軒ないのですから。

陳 普通の芝居だってそうですね。新神戸オリエンタル劇場ですか、あれもそういうことを言っておープンしましたが。店が開いている時間はそんなに遅くまでではないですね。

五木 昨年、一昨年と立て続けに三重県とかあちこち仕事も兼ねてオペラの初日を見て歩いたんですが、終わった後、皆で良かったとか何とかワーワー言って飲んだり食ったりするところがない。そういうのがセットになってオペラを楽しむというのがあるわけで、それがいいということにも寂しいですね。

陳 僕はこの七月にフィンランドに行ったんですが、サブリナという処がありますね。お城があつてね。僕が行った時丁度、オペラをやっていましたね。来年また来るからといって予約しようと思っても、もうチケットが

ないのですよ。あそこはお城とか湖の遊覧とかそんなのがセットになってるんですよ。だから観劇の後お城に泊って翌日船に乗って楽しむ、いう、一つのコースになっていました。

五木 百数十年間、日本への文化の取り入れ方というのは、全部ピラミッドの頂点だけを切り取って持つてくるようなものです。例えば映画でも、アメリカ流の映画のつくり方、合理的な近代的なビジネスとしての映画産業を作るんだということです。映画のつくり方は学んできても、その前の契約の問題とか、これは皆無なんです。

陳 旧態依然たる興行師の体質。今でもそうじゃないですか。

五木 話は変わりますが、この間「徹子の部屋」に五嶋みどりさんという十七歳のバイオリニストが出ていたんですが、しゃべり方とか対応の仕方が堂々としていて、ちょっと一風変わっていて、ああいうのは一種の天才なんですよ。

陳 ようやくその方面に天才が日本にも出るようになってきたんでしょうね。

五木 天才というのは一種の変種じゃないかと思うのです。最近の持論なんですけど、風船の大きさは一定で、片方をぐっと押すと、こっちがくぼんでしまふとか人間というのはそんなものだろうと思うんですね。それで、ある方面だけがぐっと出てくるような人は非常に面白い。これから先は四角い風船とか長い風船とか、いろんな人たちが出てきてほしいです。

陳 現にもう出つつあるんじゃないですか。

★神戸・横浜・京都の比較文化論は

五木 神戸に住んでられると、物の見方が積極的になりますでしょう。

陳 どうでしょうかね。神戸以外住んだことないんで。五木 横浜と比べると神戸は随分すっきりしてきれいで



招福楼（ポートピアホテル）のお座敷で話がはずむ

すね。新神戸で降りたんですけど、もう駅前雰囲気からして違う。もう近代都市にきたなという感じですよ。横浜のウォーターフロント、なかなかいいじゃないですか。ニューグランドですか。よく泊まるんですが。五木 歴史の古いニューグランドも今のままではもうあかんでしょうね。終戦後の雰囲気がまだ残っている処でして、そういう意味では貴重な処です。それと、土地の人情がちよっと田舎くさい、それでいて大衆的なそういう感じが横浜にはあります。

陳 庶民的です。飛鳥田さんが市長の時に言っていました。大佛次郎、吉川英治、長谷川伸、みんな何キロかの範囲内にいる。典型的な庶民作家でしょう。本質的に

庶民だと言うんです。

五木 京都には前後六年間いましたが、京都新聞が「京都で一番嫌われるタイプの人間」というアンケート特集をやったのです。初対面で慣々しくする人、遠慮しない人、ざっくばらん人、竹を割った気性の人。全部九州人に当てはまるのです（笑）。私は九州の人間なもんで、困ったなど大笑いしたことがあります。しかし税金をきちんと払って、長期滞在者と心得て京都市民ではあるが、京都人ではないとふるまうと非常に住みよかったです。大事にしてくれるんです（笑）。面白いですね。全国画一化とか言われますが、やはり人情とかそういうのがはつきり違うのは面白いです。

★「中隠」をよしとする生き方

五木 「神戸っ子」は四半世紀を超えてるわけですね。以前僕は「面白半分」という雑誌の編集長をやったことがあります。筒井さんもやったし、開高健もやった。米倉斉加年さんの絵を初めて雑誌の表紙に使ったのは僕なんです。残念ながらあの本はつぶれました。大き過ぎず、小さ過ぎずというぐらいの雑誌で仕事をしているのが一番いいですよ。この間亡くなった森敦さんへの追悼文で、古山高麗雄さんが「中隠の生涯」というのを書いておられたけれど、中隠というのを世間から忘れ去られない程度で、世間とはそこそこつき合うという。悟りを開いて山の中へ入ってしまうのを小隠。それで大隠というのはどうだったかな、中国の故事なんです。

陳 巷に隠れるです。

五木 ああそうですか。まあ中くらいというのは全てについていいですよ。

どなたがおっしゃってたか、ニュー Yorker 派といわれる作家で、ニュー York のポエジーとかエスプリを書く作家は大体ニュー York っ子でなく、田舎から来た人だということです。

陳 面白い話ですね、それは。

五木 一番敏感なんですね。大幸治なんかも東京の下町情緒に耽溺したのも、地方から出て来たからなんです。今、東京でトレンディな風俗なんかを書いてる人は、大体は地方から来た人なんじゃないかと思ったりですね。それはそのことを馬鹿にして言っているんじゃないかと絶対にないんで、生活者と観察者の違いというものがありませんね。そこを離れる必要があるのです。神戸といえば、福岡から東京の大学へ行ってしまったから、帰省の度に神戸で降りたりして、神戸の古本屋には結構ロシア語の本があったんです。要するに亡命者が手離した本なんです。

陳 神戸で僕はロシア語の中国の短篇小説なんかを見て安く買ったことがある。それに神戸は外国船の船内図書館の古本を払い下げてもらったりするんですよ。肩のこらないミステリーみたいなものばかりですよ。神戸の古本屋に積んでまして、それを横溝正史らが読んでミステリーを書くようになった。神戸はミステリーの発祥地なんです。

★文化はムダが肝心です

——昔は本流はPR誌でしたが、この頃はタウン誌の方が多くなりました。来年もやはり文化の問題が一番主流になって、街づくりやいろんなところでそういう話が増えてくると思うんですが、締めくくりをひとつそういう話でお願い出来ればと思います。今年、大阪府が百五十億円の文化的なものへのファンドを持ちまして、その他にも国際交流基金とか緑の基金とか、みんな合すると四百五十億円ぐらいのファンドがあるのです。大阪府が初めてやりましたけどね。そういう金があると、練習場なんかつくって、なおかつ資金が潤滑に補充出来るんじゃないかと思うんですが。

五木 文化というのは大体ムダ金みたいなものなんで、こういう予算を使ってこういう事業をしたから成果があったというふうなものじゃないですね。金の使い方が

間違ってるんじゃないですか。例えば大ホールはつくれるけど、ちよど手頃な講演会場がないんですよ。三百人とかそのぐらいの会場が。メディアムサイズのものも意外と無いんですよ。何かという和多目的ホールとなつて、結果的には無目的ホールばかりつくるでしょ。陳 そうなつてしましますね。

五木 これから大きなホールをドーンと一つつくるよりも、小さなホールをたくさんつくる方が楽しいですね。雑誌もいろんな小さな雑誌がたくさんなければいけないし、一人一人の個性とか、町の個性とかがくっきりしないとね。今はどの町でも同じように見えますからね。中国はそんなことありませんでか。

陳 やっぱ影響は同じように受けますよ。

五木 将来はどんどんそっちの方へいきますよ。モスクワにこの二月からハンバーガー店がいくでしょう。これはものすごくはやると思いますよ。次はもうロシア中にね。コーラ飲んでハンバーガーを食べるのがモスクワの冬の風物詩になるとは、やっぱ寂しいですね(笑)。

陳 日本なんか舶来ものにちよつと慣れきつたところがあるんじゃないでしょうか。これからよくなりますか。

五木 なりませんね。コマースシャルで格好のいいコマースシャルというのは、全部外人ですよ、出ているのは。ああいいうのは日本人の心の中に無意識にある西欧人への崇拜みたいなものがあるからです。アジアに対するコンプレックスと西欧への憧れみたいなものが、ますます強くなって続いていくというのは悲劇的ですね。陳さんは、ゆつたりと何千年単位で非常に希望をもって、豊かな目で今の社会を見てらっしゃるでしょう。

陳 そんなことは、僕は思わんけどね。

五木 インドに行つてカルチャーショックを受けるのはやはり一理ありますよ。古い自動車しか走ってないし。陳 外国の車は入れないんです。タルタ財閥がつくっているアンバサダという車がありますね。運転席にはシバ神だとか、神様のプロマイドをいっぱい貼つてある。タ

クシーに乗るとね。インドで外車を見ると、これは領事館など外交関係の人の車です。

★一九九〇年・世紀末のポイントは

五木 一九九〇年はどんなふうな年になりそうですか。

陳 九十年代。世紀末ですね。ポイントは東欧じゃないですか。世界のバランスが崩れるでしょうね。ソ連がどこまであきらめるかということですね。ポーランドでも食えなくなっちはしようがないから。それに西欧の思想やマナーが入ってきますしね。現代は情報量が違いますから。だから人間なにかが幸せかというところ、一番形而下の問題からはつきりしませんがね。自由があつて、いろんな物が買えるというのが、一番説得力がありますからね。

五木 神戸では、年を越すというのは、どういう雰囲気ですか。

陳 汽笛、爆竹。

五木 汽笛は横浜でも大晦日には盛大にやります。

陳 横浜では爆竹はしないのですか。

五木 横浜の場合は、中華街が一つの城のような感じなんです。ゲートが両面にあつて、それで独立したみたいな雰囲気だから。だから余り町に溶けこんでいるというのではないですね。

陳 横浜の中華街は神戸よりうんと広いですよ。

五木 戦争中に俳人の西東三鬼が住んでいたという、神戸のホテル、異人館の崩れた感じのホテル、現存してま

すか。
陳 もうないでしょう。西東三鬼は非常にモダンな人ですね。神戸らしい。

五木 新興俳句事件というのを調べていた頃に、日菜坊という方が神戸に現存されているんじゃないかという話があつたんですが、ロシア語でニチエポーと言うんだそうです。なににも無いという意味なんです。

俳句でも神戸系列の俳句は、赤尾兜子さんにしてもそ

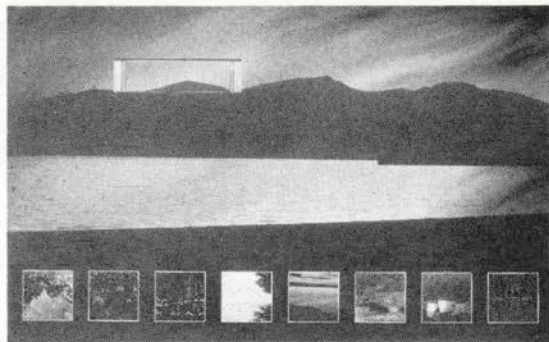
うですがどこかモダンでアパンギヤルドなところがありましたね。どちらかという分野暮ったくしてるのが文学者らしいでしょう。

陳 神戸らしいモダンでダンディだった人と言えば詩人の竹中郁さんが忘れられませんがね。竹中郁さんは本当に格好よかつた。いつもトアロードでパンやチーズを買ったり颯爽と歩いてましたね。竹中さんの面白いエピソードに阪急電車に乗っていて、車窓からセンスのいいカーテンか何かのかかっている家が見えた。そしたら次の駅で下りて、トコトコと歩いてその見ず知らずの人の家へ行き「それ、どこで買いましたか」と聞いた(笑)。何しろ憎めない人でしたね。

五木 そういう方というのは、年を重ねるに従つて、そのモダンさが日本人離れてよくなつていくんですよ。なかなかうまく歳がとれないですね。余りそれらしくするのは嫌なせいもありますけれど。五十七になるんですが、人に歳を聞かれると「いや、もう二、三年で還暦です」といつも言っているんですけどね。なかなかそういう感じにならないですね。

—— 長時間、いろいろ面白いお話をありがとうございました。

△'89年9月収録神戸ポートピアホテル招福楼にて▽



©LE SYMBOLE FRANCE JAPON

新春さわやか対談

ひょうごごっ子たち、

世界の空に翔こう

「こころ豊かな兵庫」をめざして

貝原俊民
住野和子

（兵庫県知事）

（神戸YMCAプログラムディレクター）

写真上・日仏交友のモニュメント「淡路：回帰線の底」

★人類への貢献を象徴する

素晴らしいモニュメントを

知事 住野さんは昨年、神戸YMCAクロスカルチュラ・センターのお仕事で県の社会賞を受けていただきましたが、井植文化賞も受賞されましたね。ほんとうにお願いします。

住野 ありがとうございます。クロスカルチュラル・センターが発足して十年、留学生のホストファミリープログラムは七年前に始めました。その頃の留学生は全国で八千人ほどでしたが、現在は約二万六千人。ボランティアの方をはじめ、たくさんの方々のご支援でここまで続けてこられました。まるで夢のような思いでございます。

知事 一九八〇年代にはアジアの人たちを中心に、日本を訪れる外国の方が飛躍的に増えましたね。ところで、一九九〇年代に日本がやるべきことは何かを考えてみると、その一つは、モニュメントをつくることだと思うんです。いろいろな国の歴史を見ても、国力のある国は、何か人類に貢献した証としてモニュメントを残していま

す。日本は二十世紀の工業社会で最も成功した国だといわれており、今後もこのような状態はしばらく続くだろうということですから、私たちもソフト・ハードの両面から、歴史的に評価されるような価値あるモニュメントを残したいですね。

住野 二十一世紀に向けて今、新瀬戸内海時代を迎えようとしている時、兵庫県でも世界的なプロジェクトがいろいろ進んでいますね。

知事 兵庫県に関係するものとしては、たとえば大阪湾ベイエリアの関西国際空港や世界一の吊り橋明石海峡大橋があります。この橋の支間長は一九九〇メートル、そして今年は一九九〇年、偶然数字が同じなんです。また、日仏友好のモニュメントの構想も進んでいます。21世紀は「コミュニケーション」がテーマになるということで、日本とフランス、ひいてはヨーロッパとアジアの相互理解と友好交流のために、その拠点をつくらうというところで、フランスから日本に贈られることになったものです。幸いなことに、建設地が淡路島に決まり、デザ



員原県知事

いといわれる二十億年前の花崗岩を持ってきて台座に据え、その上に強化ガラスの支柱を立て、巨大なプロンズのアーチを架けます。高さ約八十メートル、幅約三十メートル、アーチは長さ約三百メートルで通信装置が内蔵されています。そして、人工衛星を通じて地球上の秘境といわれる地域の映像を受信し、台座周辺の八つの庭にあるスクリーンに映し出すというものです。テーマは「コミュニケーション」ですが、どうも東洋人、特に日本人はコミュニケーションがあまり上手くないようです(笑)。

インコンベの結果発表が去年の七月にバリのエッフェル塔で行われました。優勝作品は建築家パトリック・ベルジェ氏の「淡路…回帰線の庭」で、これはフランス・ブルターニュ地方のバツツ島付近からヨーロッパで最も古

住野 でも、これからはそんなことでは済まされませんものね。ところで、いつ完成するのですか。知事 一九九八年の明石海峡大橋完成と同時期に、このモニメントも完成の予定です。



住野和子さん

住野 ほんとうに素晴らしいことですね。八年後の完成まで健康でいて、ぜひ近くで見たいと思います。日本は、急激な経済成長でよく経済大国といわれますが、「大国」とはなかなかいってもらえません。八十年代の国際関係というのは安全保障を含めた軍事面から経済面へと移行してきましたが、九十年代はほんとうの意味で日本が大国と呼ばれるためにも、文化面を含めた総合的な国際交流を進めていく必要があると思います。世界では、一九九二年にヨーロッパでECが市場統合される予定ですし、カナダとアメリカ、

環太平洋諸国の関係にしても、各国が自分の文化を持ちながらグローバルな繋がりを持って、ともに進んでいくうとしていきます。こうした世界情勢の中にあって、素晴らしい自然に恵まれている兵庫県は、ひとつのモデルケースとして環境汚染や自然破壊の問題を乗り越え、豊かな自然を活かしながら自分の文化やアイデンティティを世界にコミュニケーションする情報発信基地になれそうなきががします。ハード面でのモニユメントができる、私たち県民一人ひとりもそれに応じたソフトづくりということで、自分たちの新しい可能性が広がることでしよう。

知事 神戸のレジャーワールドなども、今の日本がやるべき立派なモニユメントだと思います。おっしゃるようヨーロッパやアメリカが国境をなくすような動きにあることから、日本もアジアと国境をなくすような方向で考えていかなくてはいいけないと思います。関西国際空港ができ、明石海峡大橋ができてたくさんの人々が兵庫県に来るようになる時にこそ、きちんとした受け入れができるようにしておかないといけません。その意味からも、まさにクロスカルチュラルセンターがその先導的な役割を担ってお世話しておられるわけです。しかし、日本人は国際化といえながら、アジアとの交流をあまり高く評価していないのではないのでしょうか。欧米人にコンプレックスを持っている人は、逆にアジアの人を蔑視するようなことがあったりします。その点、兵庫県は国際交流先進県ですから、どの国の人も対等につきあっている人が多い。私みたいに外国語があまりうまくなくても気にせずにつきあっている者もいますしね(笑)。日本の中でも兵庫県人は、アジアともうまく交流している国際性を身につけていますから、国際交流の面でも先導的な役割を果たしているのではないかと、思っているんですよ。

住野 確かにそうですね。全国の留学生の八十五％はアジアからの人で、中国、韓国、台湾の順に多いんです。神戸の場合は九十％がアジアからの人たちです。そ

のうち、兵庫県の留学生の七十五％をクロスカルチュラルセンターがお世話させていただいており、その四三二人の留学生に対して同数のホストファミリーがいらっしやいます。大阪にも同じような留学生の里親制度があるのですが、実際には引き受け手が少ないこともあり、困っておられるようです。私たちのところでは、これまでホストファミリーが足りなかったということはありません。やはり海があり、これまでも外国の人たちとの交流を続けてきましたので、良い意味での好奇心、開かれた心があるのだと思います。確かに国際化とはすなわち欧米化だという考えは根強く残っていて、欧米人だけを優遇する現実が、アジアの人たちをひどく傷つけていますので、私たちはこの点に最も気を使っています。ただ嬉しいことに最近、留学生を受け入れたホストファミリーの方が彼らと付き合っていくうちに、日本の学生より中国や韓国の学生の方が優秀じゃないか、とアジアに深い関心をもつ人たちも増えてきて、それが私たちの励みになっていきます。

知事 この前但馬に行きましたら、まちの人たちが「素晴らしい国際交流をしました」と、目を輝かせておっしゃるんです。お話を聞きますと、その地域に外国人の一行が訪れた際、それまで接したことのない国の方が訪ねてきたある町では、初め少しとまどいを感じたそうですが、四、五日ホームステイしているうち、ほんとうに温かみのある気さくな人たちであることを知って、互いに心が通うようになり、帰る時にはお互いに涙を流して別れたほどだといっていました。

住野 ちょうどユニバーシアード神戸大会でアフリカの選手の人たちが見事な活躍をしていた折り、私もどりでベリアからの留学生を紹介したことがあります。そのとき、子供たちは「うわあ！カッコいい！」と喜んで、近所の子供たちもみんな集まってきて歓迎したという話を聞きました。国籍とか肌の色ではなく、その人の才能や性格など、ありのままの人間を素直に見ようとする子供

たちにかえって教えられました、といったホストファミリーがいっぱいいます。ですから、これからの新しい時代を生きる子供たちや若い世代の人たちの真っ直ぐな強い心に、大きな期待を寄せているのです。

★地域レベルの国際交流の先駆け

ワシントン州に兵庫文化センター

知事 兵庫県はアメリカのワシントン州と姉妹提携を結んでおり、昨年の八月、ワシントン州が建州百年を迎えましたので親善使節団の一員として記念行事に参加いたしました。そこで聞いたのですが、日本語を勉強したいというアメリカ人が多くて、五十校くらいのハイスクールに日本語学科があるそうです。しかしそこで教える先生が少ない。また、日本語がまだ十分でない先生がもっと勉強したくてもできない状況らしいです。先日、ある国の総領事さんと話したときも、「日本人は大変もったいないことをしている。欧米では、自分の国の言葉や文化をできるだけ多くの外国人に理解してもらうためにいろいろと努力しているのに、日本は、日本語を勉強しようとしている外国人がたくさんいるのに何もしていない」とおっしゃるんです。この二つの話を聞いていろいろと考えさせられました。ジェットロという貿易振興のためのブランチは世界中にたくさん行き渡っているのに、文化の分野ではなにもないのです。そこで兵庫県では、県としてできることには限度がありますけれども、ワシントン州に兵庫文化交流センターをつくって、日本語や日本文化を勉強したい人のために現地で手助けしていきたくて考えています。外務省も全面的にバックアップしてくれるということですね。

住野 英国の素晴らしいところは、植民地政策の中ではありましたが半官半民の英国文化センターを世界

中に造ったことで、英国文化の普及とともに、英語が国際的に話されるようになりました。日本もやはり、こうした時期に来ていると思うんです。アメリカなどに留学するときにはトールフルといった英語の資格試験があった、ある程度自国で英語を身につけてからでないとして入れてもらえません。ですから、ワシントン州だけでなくアジアの国々でもまず、日本語をしっかりと勉強できる施設をつくって、留学する際にも事前に勉強してから来日してもらえば、研究ももっと身につくことでしょう。

知事 現在、日本語を外国人に教えるためのきちんとしたプログラムがありませんので、まず、これを開発しなければならぬんです。あまりお金をかけなくてもできるのであれば、兵庫県でやってみようかと考えているところです。幸い、住野さんのような方もいらっしゃいますしね(笑)。関西にも日本語センターのようなものをつくって、留学生は語学の勉強をしてから大学に行く、というふうにしたいものです。

住野 私も、日本語の教師を十八年やっております。初めの頃は英語圏の生徒が多かったのですが、最近是中国や韓国などの英語圏でない人が多くなっています。言葉というものはその国の文化を伝えることには分かたもらえませんので、生徒たちの国の文化と日本の文化をよく理解した人が日本語を教えていかなければならない時がきています。昨年の十一月に、私たちはバイリンガル・スピーチコンテストを開催いたしました。そこに二十三ヶ国、一〇六人の応募をいただいたのですが、英語も日本語も母国語ではないインドの方が優勝しました。このように、いろいろな国の人たちが日本語の勉強を希望しています。いま日本では難民の人たちとか、日本で働き、生活することを希望する中



国人の人たちへの対応が問題になっています。ぜひ兵庫県で、こうした外国人への総合的な日本語教育に取り組んでいただきたいですね。

★生きた国際交流は、こころ豊かな兵庫づくりから

知事 いつか中国の留学生が、日本の学生はスキーやドライブの話ばかりで、私たちが興味のある文化や経済、あるいは国際情勢に関する話題についてはあまり話さないでコミュニケーションができません、といっています。ほぼ同じ年代の留学生が、今の日本の大学生のライフスタイルが理解できないために、人間的な交流ができないというのであれば、生活の仕方や価値観が違うのはやむをえないとしても、現在の日本の若者たちにもいろいろと問題がありそうです。

住野 今の日本の若者は、私たちのようなハングリーな時代を経験した世代と違って、ほんとうの豊かさじやないものにお金をかけてしまっ、かえってほんとうの豊かさとの出会いが少ないのじやないかと、気になります。たとえばオーストラリアにはワーキングホリデーというものがあります。これは大学に入ってから自分のお金で、働きながら外国で未知の世界を経験して、自立への足がかりにしようとするものです。確かに、異質な人々や文化、自然との出会いは、初めは摩擦があるけれども、日本の若者たちも恐れずに挑戦して、感覚が新鮮なうちにクリエイティブな豊かさを築いてほしいと思います。

知事 最近の子供たちは、細やかな感性を少しずつ失いつつあるのではないかと、心配する人がいます。言葉やスポーツ等と同じように、自然に対する感性も、それが育つ時期がちゃんとあるんですね。そうした時期に自然とふれあう生活をしていないと、豊かな感性は育たない。それを育ててこそ、異なる文化に対する感動や尊敬の念、そして国際的な交流をしていくたくましい心も生まれてくるのだと思います。

住野 オーストラリアでは週末になると、たいていの家族は父親が中心になって海や山へ行ってバーベキュー・

パーティーをします。車で一時間くらいのところ、家族全員が一年がかりで建てたログハウスなどを持っていて、これがご自慢の家なんです。ここでは親が子供と思う存分自然にふれあひながらいっしょに仕事をし、父親や母親の役割や生き方、自然の厳しさや優しさを子供に体験させ、豊かな感性を育てていく努力をしています。そしてその中で家族のつながりを深めているのです。

知事 いまの私たちの生活は、経済的にも時間的にも少しゆとりができてきました。日本では土地が高いといわれますが、よく考えてみると兵庫県は大変ふところが広くて、但馬とか丹波への交通網も整備されましたし、淡路島にも橋が架かります。それらの地域では、サラリーマンにも手の届く土地がたくさんあります。そういうところに、「ふれあひ塾」としてログハウスをつくりながら自然にふれあう機会をつくろうという計画があるので、今後そんな村がいくつもできてくるでしょう。また、これからは休みも増えてきますから、週末になれば、都会の人が農山村に出かけ、逆に農山村の人たちは神戸や阪神間の劇場で音楽を聞いたり演劇を見たり、姫路の美術館や博物館に行くというふうに、県内の各地域の個性や魅力を味わいながら日常的に生活できるようになります。兵庫県全体がひとつの生活圏として結ばれれば、自然や文化、家族とのふれあひを深めていく中で豊かな感性も育ち、国際人としてのみずみずしい感覚も自ずと身につけていくと思います。なにより、そういうところ豊かな生活をしていないと、日本人はお金を持っているがちっとも充実した生活をしていないと、外国の人々から軽蔑されてしまいますね。ですから、県民の皆さんと力を合わせて「こころ豊かな兵庫」づくりを進めていきたいと思っています。

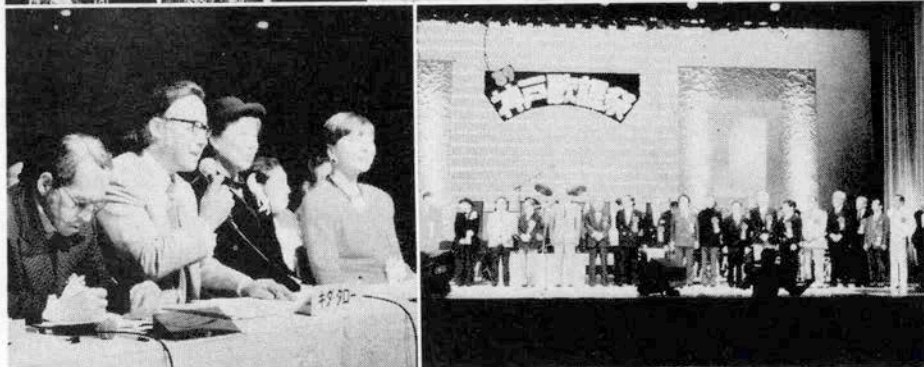
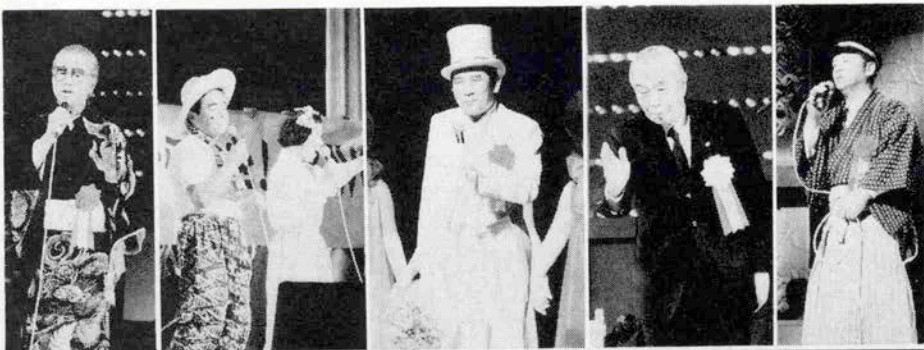
住野 ほんとうにそうですね。異なった国で生まれ、育った人たちがともに理解し合える生きた国際交流も、こころ豊かな人づくり、兵庫づくりの中から生まれてくるものです。

話題のひろば

＜Ⅱ＞

■'89神戸歌謡祭開く

リーダーはスター パワフルな舞台展開



度胸満点。ユニークな舞台が繰り広げられた。審査員も、親しい人には甘くなりがちで採点には四苦八苦。
上左より鬼塚社長・畑崎社長・森社長・石野神商會頭・氏平尼商會頭

日頃、仕事に東奔西走している神戸の行政・経済・文化各界のリーダー達が、歌を通じて交流、自慢の(?)ノドを競い合う'89神戸歌謡祭が、12月15日神戸国際会館で開催された。

仕事に打ち込む姿からは想像し
がたいが、衣装も工夫を凝らし、
川鉄運輸相談役小島さんの着流し
も堂に入ったものであった。パツ
クコーラス、ダンシングチームな
ども決まっただけで、場内満員の中
それぞれの応援団も、のぼり在り
ペンライト在りで、熱気ムンムン。
近江俊郎、キダ・タロー、末広真
季子、鳳蘭各氏の審査のもと「ジ
ェントルマン賞」「エキゾチック
賞」などが送られ「レベルが上が
り、皆さん前回より腕を上げられ
た」との柏井審査委員長の総評通
りの熱演であった。特別ゲストに
貝原県知事と神戸高校合唱部によ
る「ふれあいの祭典」のテーマ合
唱、画家石阪春生氏の「マイウエ
イ」の熱唱も、素晴らしく、今回
は第2回目であるが「次回ももっ
と盛り上げて、毎年開催したい」
と主催者の弁。

この歌謡祭は、チャリティコー
ンサートとして、入場料の一部は
財兵庫友愛基金に寄付され、貝原
知事より、中内功実行委員長へ感
謝状が送られた。尚、この模様は12
月30日にサンTVで放映された。